

[研究資料他]

幼稚園の作品展の可能性の研究の為の実践と考察

Practice and Consideration for a Study Researches a Possibility of the Exhibition of Children's Works in a Preschool

立崎 博則

Hironori TACHIZAKI

青森中央短期大学 幼児保育学科

Department of Infant Education, Aomori Chuo Junior College

Key words : 制作過程、展示、コミュニケーション

1章 研究背景 前回の課題と今回の研究の目的

1) 研究背景

本研究は、『幼稚園の作品展の可能性の研究の為の現状調査（立崎、2015）』で行ったアンケート調査により得た課題を元にした実践研究である。

幼児の造形遊びの中で、子ども達の作品に「上手だね。」という技術面の評価に関する声がけだけでなく、『幼稚園教育要領』の「表現の領域」にあげられる「1ねらい (1)いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を持つ。(2)感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。(3)生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。(文部科学省/2008)」を育む為の、共感してあげる声がけ（きれいだね、面白いね、良い色だね。などなど）が行われる場が必要だ。そして、「展示や作品展」という、子ども達の作品を通してコミュニケーションが行われる場をどのように充実させるかが本研究のきっかけであり、大きな目的である。

そのため、前段階の調査である『幼稚園の作品展の可能性の研究の為の現状調査（立崎、2015）』では、青森市の幼稚園に協力していただき、現在、園で実施している「展示や作品展」に関してのアンケート調査を実施した。その結果、作品の見た目や見栄えのために様々な工夫が行われている事が見えてきた。さらに、先生方が作品展を通して伝えたい事は、「子ども達のがんばり」、「一人一人の個性」、「作品の作り方などの過程」など作品をみただけでは伝わりづらい事がらがあげられるという結果もまた見えてきた。また、子ども達も自分の作品が展示される事に対して一時的に感動をするもののその感動は長く続かないなど、子ども達にとっての「展示/作品展」をより強い感動体験とする工夫が必要だという課題が見えた。

この「作品を見ただけでは見えない事を伝える。」と「子ども達にとってより興味関心を持てる作品展の為の工夫をする。」の二つの課題を本実践研究のねらいとする。そして、「作品を見ただけでは見

えない事を伝える。」に対して、子どもの造形表現研究会『保育者の為の基礎と応用 楽しい造形表現』の中で、子ども達の造形表現活動の評価として、一つは造形性や芸術性の評価をあげると同時にもう一つを「いわゆる教育的評価であって、その子どもをよく知ることから始まります。結果としての作品を見る前に、一人ひとりの個性や発達、家庭環境等を踏まえ、特に活動過程を重視しながら、精神的な成長を含め総合的に見ることです。(子どもの造形表現研究会/2007)」というように、制作過程から、先生方が作品展を通して伝えたい「子ども達のがんばり」、「一人一人の個性」、「作品の作り方などの過程」を伝える事ができればそれは精神的な成長を見せる事ができると仮定した。また、「子ども達が作品展により興味関心を持てる為の工夫をする。」では、『幼稚園教育要領解説』の表現の「内容の取り扱い」で説明される幼児の心の表現を「教師が受けとめ、認める事によって、幼児は自分の感動の意味を明確にすることができる。また、自分と同じ思いを持っている幼児に出会うと自分の感性に自信をもつことができる。(文部科学省/2008)」と説明されるように、自分の作品を認めてもらい、また他人の作品を認める言葉がたくさん交わされるコミュニケーション活発な展示を目指す事を目標とした。その為、子ども達の作品だけではなく大人も参加する展示を作る事で、保護者や先生も参加できる展示を目指す事にした。その方法として、制作過程をビデオで撮影し、制作過程・子ども達の活動そのものを映像作品として子ども達の作品と一緒に展示する事にした。また、展示の場を本学の学園祭時とし、園児と保護者だけでなく、大学生やその関係者も見ることのできる、附属園と大学という環境を活用し、より幅の広いコミュニケーションが期待できる展示を目指す事にした。

2章 実践の目的と実施・研究方法について

1) 実践の概要

・実践の目的

子ども達が褒められたりする造形遊びの評価の場としての「展示/作品展」で、子ども達の作品を展示するだけでなく、展示されている作品の制作過程を記録した映像を上映することにより、先生方が「展示/作品展」を通して伝えなかった子ども達の成長を見せることができるのではないかと考えた。また、子ども達だけではなく保護者や先生などが参加できる企画がある「展示/作品展」であれば、より子ども達との活発なコミュニケーションが期待でき、子ども達自身も褒められたり褒めたりし、「展示/作品展」あるいは造形遊び自体にもっと興味関心を抱きやすくなるのではないかと、2つの仮定を立て実際に「展示/作品展」を企画し実践研究をする。

・展示概要

実践である展示は、本学の学園祭で行うことにした。本学の年行事である学園祭では、毎年附属5園の年長児を中心にこの学園祭の為の作品展示を行っていた。また、本学幼児保育学科の1年生も造形の授業での学びの成果発表の場として附属園とは異なる場所で展示を行っていた。本実践研究では、この二つの既存の展示を利用し、附属園園児と幼児保育学科1年生の合同の展示を企画し実践研究の場とすることにした。それにより作品展の日程を2016年の9月17・18日とし、場所を本学の講義室とする事とした。

・展示のテーマ

附属園園児と幼児保育学科1年生の展示のテーマを決めるにあたり、本学幼児保育学科2年生が毎

年、学園祭で行うミュージカルの演目を参考にした。同じようなテーマとする事により、子ども達が自分たちの作品展を見に学園祭に来る際にミュージカルにも関心を持ち鑑賞する事となれば、より強い造形鑑賞の体験として作品展とミュージカルを記憶するだろう。今年度のミュージカルの演目は「青い鳥」に決まったのちに展示のテーマもそれに合わせて「幸せの鳥」に決めた。子ども達に幸せって何だろうと考えながらカラフルな幸せの鳥を各々が制作する事にした。

2) 制作について

・園児と学生の合同の制作について

学園祭での展示に向け、幼児保育学科1年生は例年、造形の授業で作品の準備を行ってきた。今回も造形の授業の数コマを展示の準備にあてる事にした。そして、附属園協力していただき造形の授業の時間に園児達を連れてきてもらい、幼児保育学科の授業の中で学生と園児と一緒に制作する時間を作る事とした。制作ワークショップの日程を7/1（金）、7/8（金）、7/15（金）の三日間で調整し実施する事となった。この制作ワークショップでビデオ撮影をし、編集したものを制作過程の記録の映像として展示する。また、園児達が制作した作品を、学生が装飾し、その他展示に向けての準備を学生の課題とし設置から運営までを企画することにした。

合同の制作は幼児保育学科1年生の造形の授業時間に附属5園の子ども達に順番に来てもらい行った。制作では、学生78名を3クラス（各26名）に分け、附属5園の年長児157名を、幼保連携型認定こども園浦町保育園年長児（46名）、幼保連携型認定こども園中央文化保育園年長児（20名）、認定こども園青森中央短期大学附属第三幼稚園年長児（29名）、認定こども園青森中央短期大学附属第二幼稚園年長児（24名）、認定こども園青森中央短期大学附属第一幼稚園年長児（38名）が3週に渡り三日間での制作日を調整した。

子ども達が本学の造形室（ビーバースタジオ）に迎えて、制作を行うために幼児保育学科1年生には、その手順（60分間の活動を予定）を説明し、グループで係を決め、どのように動くかを話し合わせるなどの準備も授業内容として行った。1クラス26名3クラスに分かれた学生は、さらに、クラスの中で5つのグループ（5－6名ずつ）に分かれた。事前に子ども達も5つのグループに組分けしていただき、当日スムーズに学生のグループと合流できるようにした。子ども達のグループは制作過程の記録の映像を撮影するなどの本研究への子ども達の参加の承諾書を元に、参加協力の承諾をいただいた子と、いただけなかった子でグループを分け、撮影時に区別できるようにした。

制作については以下に手順を簡単な説明と写真で流れを記す。

- ①絵の具を混ぜ、紙に押し当て模様を楽しむデカルコマニーを使って遊んだ。
- ②乾燥させたデカルコマニーの作品を葉っぱの形などに切る。
- ③葉っぱの形を鳥の羽に見立て、幸せの鳥を制作した。



図1-1 合同制作の様子

・パネルの制作

子ども達との合同の制作が終わり、子ども達の作品を預かると、幼児保育学科1年生の造形の授業では、その作品をどのように装飾し展示作品にするかという課題に取り掛かった。180cm × 90cm のダンボール板3枚を繋ぎ合わせ屏風型のパネルを組み立て絵を書いたり紙を貼ったりした後に担当する子ども達の作品を貼り付け装飾しパネルの作品を作成した。

・制作過程の記録映像について

合同の制作時に、ビデオカメラで研究への参加協力の承諾を確認している子ども達の班を撮影した。5園分の映像をそれぞれ編集し、1園5分ずつの長さにし全部で30分程度の動画を制作した。制作の過程を順序通りに編集し主に子ども達の笑顔や会話が見えるような映像とした。

・保護者などより多くの方の展示の参加について

沢山の方が参加しよりコミュニケーションが活発な展示を目指す為に、園児保護者にも作品を制作してもらい、作品展に参加してもらう。文字という素材を使った作品は、展示の参加のハードルを上げないだろうと考え、メッセージカードにした。メッセージを書くカードは、何種類かの鳥の形に切り、そこに「子ども達の幸せってなんだろう。」をテーマに文章を書いてもらう。保護者に子ども達の研究の参加に関する承諾書に、お願いの文章と共に鳥のカードを貼り付け、一緒に回収できるようにした。また、園の先生、学生や教員にも書いてもらい、様々な人が考える「子ども達の幸せってなんだろう。」のカードを集めた。この時点で、この展示の名称を『子ども達の幸せってなんだろう？「青い鳥」展』とする事とした。

・ワークショップについて

作品展に来た子ども達に、より強い感動体験としての展示を体験してもらう為の工夫として、展示期間中にも制作ができるワークショップを学生運営で行うことにした。一度作った事のある園児は教える側になれるだろうし、作った事のない子ども達は周りの作品に刺激され制作するかもしれない。造形遊びの体験ができる場として、展示と並行して行う事とした。

3) 展示について

本学713教室という講義室を使用し展示した。教室の後ろ（図2の右）は階段席で机が撤去できないため制作過程の記録映像や、過去の幼児保育学科2年生のミュージカルを上映するスペースとした。基本として教室の前（図2の左）のみを展示スペースとして使用する事にした。

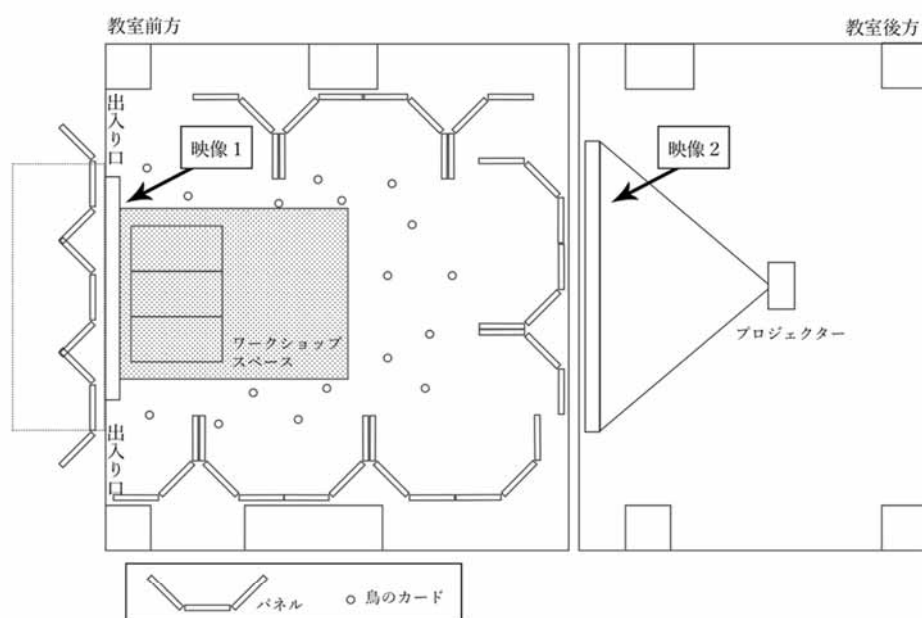


図2 713教室展示図

屏風型のパネルの作品は、教室を囲うように配置した。置く順番は、見に来てくれた子ども達と保護者が自分の作品を探しやすいように園ごとに並べ、看板を立てた。「子ども達の幸せって何だろう？」のメッセージカードも園ごとに保護者・先生、または学生ごと、教員ごとと分け、天井から吊るして展示することにした。これにより、教室を周回して、園の看板を目指し子ども達の作品を探し見る道程でメッセージカードにも気づくと期待した。そして、制作過程の記録映像は教室の前方のスクリーン（図の映像1）で上映した。子ども達の声も大きく聞こえるようにし、制作風景を再現した。さらに学生が展示期間中に運営する制作体験ワークショップが教室の中央にくるようにし、そこで、同じ幸せの鳥を制作できるようになっている。



図1-2 展示会場の様子

4) 研究方法

実践する展示または作品を、展示期間中に展示を見に来てくれた方にアンケート調査により評価していただき良かった点や今後の課題となる点を見つける事とした。アンケートは15分程度で答えられるものとし制作過程の記録の映像の事、会話（コミュニケーション）の事、展示参加の事と展示全般の事と分類し質問することとした。

アンケート用紙により調査を行うことにした。質問は①年齢と展示との関係について、②制作過程

の記録について、③会話/コミュニケーション、④展示への参加について、⑤展示全般について、の5つの項目に分かれた10個の質問で行う。

アンケートは展示を見に来ていただいた方の中からランダムにお願いし書いていただいたものをその場で回収する形で行われた。これらについて回答データは全て統計的に処理し、個人が特定できない形で研究調査結果の発表を行う事を書面で伝え、アンケート用紙の提出を持って調査協力への同意を判断させていただいた。また、倫理的配慮に関して、この調査は、青森中央短期大学研究活動推進委員会倫理審査会の承認を得て実施した。

3章 アンケート調査の結果と考察

2016年9月17日（土）、18日（日）の2日間、青森田中学園学園祭が開催された。その中で、青森中央短期大学附属園・幼児保育学科1年生連携展示「子ども達の幸せって何だろう？『青い鳥』展」が開催された。時間は11時からおよそ15時までの開場となった。期間中、幼児保育学科一年生の係の学生が交代で会場に常駐しワークショップを行ったり、見に来てくれた方に声をかけたりした。その会場でアンケート調査は行われ、57枚のアンケートが回収された。

1 調査結果と考察（年齢と展示との関係について）

まず、はじめにアンケートに協力していただいたか方について見ていきたい。表1「アンケート結果1 年齢と展示との関係」は回答者の年齢と展示との関係について聞いた項目になる。年齢は20～30代、関係は園児の保護者が多いことから、たくさんの園児とそのご家族関係者が見に来ていただけたことがわかる。このことから、園の作品展は園児とその周りの人が対象者となる。今回のように大学の学園祭での展示であってもやはり保護者が多かったことから、ターゲットは子ども達とその関係者にしぼって考えることができるということが言える。

表1「アンケート結果1 年齢と展示との関係」

あなたの年齢と、この展示との関わりを教えてください。（該当する項目を丸で囲んでください。）

問い	選択肢	割合	回答数
① 年齢	～20	16%	9
	～30	39%	22
	～40	33%	19
	～50	4%	2
	～60	5%	3
	61～	4%	2
② 展示との関係	A 園児保護者	35%	20
	B 園児保護者関係者	11%	6
	C 附属園の先生	2%	1
	D その他の園の先生	2%	1
	E 幼保学生・教員	4%	2
	F 短大大学院大学生	4%	2
	G その他	44%	25

2-1 調査結果（制作過程の記録について）

次に、表2「アンケート結果2 制作過程の記録」の項目を見ていきたい。この項目は展示による実践研究のねらいの一つである、先生方が「展示/作品展」を通して伝えたかった子ども達の成長を制作過程の記録映像を通して見せるができたかを聞く質問である。問い③「制作過程の記録映像でどのような場面が、印象的でしたか。」と、問い④「子ども達の作品だけではなく、作品と制作過程を

見ることによって、どのような事が伝わりましたか。」という質問は似たような答えが出ると予想されたが、制作過程から伝わることだけでは、回答者がすぐに答えを思いつかず無記入になる可能性もあると予想した為、そして、印象的な場面はという問いだけでは不十分になると考えられる為に、両方質問することとした。

結果は予想通り似た答えとなった。無記入での回答は問い③は15回答で全体の25%、問い④は31回答で51%となった。

問い③「制作過程の記録映像でどのような場面が、印象的でしたか。」から見ていきたい。一番に多かった意見は「子供達が楽しそうに作品を作っている場面」など、元気な子どもの姿に関する項目（16回答/28%）であり、「子供達が一生懸命作っているところ」など制作する子ども達に関する項目（9回答/16%）と「学生と園児の協力する姿」などの学生と子ども達に関する項目（9回答/16%）が同数で二番目に多かった。その後に、保護者目線の項目で、「幼稚園での子供の様子が見ることができて嬉しかったです。」など園での生活が見えた事をあげられている。最後にその他に当たる展示のことがあげられた。

問い④「子ども達の作品だけではなく、作品と制作過程を見ることによって、どのような事が伝わりましたか。」について見ると、一番多かった項目は子供達についての項目（10回答/18%）となっている。「のびのび活動している様子」や「生き生きした表情や取り組み方が伝わりました。」が多いについてである。次は、作品に関する項目（8回答/14%）で「作品がカラフルにできていたので、子供達のカラフルな楽しい心がそのまま作品に現れています☆」「どんなふうを作っているかがわかると楽しい。」などの意見が見られた。それらに続き、学生と子ども達に関する項目（3回答/5%）や保護者目線の項目（2回答/4%）その他 作ることにについて、子供について、観覧者の変化など（3回答/5%）となる。

表2 「アンケート結果2 制作過程の記録」

今回の展示では子ども達の作品だけではなくその作品を制作した制作過程も一緒に上映しました。

問い	分類	割合	回答
③ 制作過程の記録映像でどのような場面が、印象的でしたか。	元気な子どもの姿に関する項目 (16回答)	28%	子供達が楽しそうに作品を作っている場面(10回答) 子供達の笑顔 (4回答) 子供達の声 子供ののびのび感
	制作する子ども達に関する項目 (9回答)	16%	子供達が一生懸命作っているところ (4回答) 自由に意見を言い合って作品作りをしているところです。 (2回答) みんな仲良く作っていて、隣の子を見たり相談したりしているところ 子供の中で「これどうするの」「これでいいの?」と迷ったり悩んだりしている様子 子供同士のやりとりが見れて嬉しかった。
	学生と子ども達に関する項目 (9回答)	16%	学生と園児の協力する姿 (4回答) ひとりひとり子供の希望に合わせて指導しているところがいいと思いました。 (2回答) 学生と一緒に作った作品とは気付かなかったで驚いた。 学生さんと園児たちの距離感が近くてすごいと思った。 園ごとに任せるのではなく、学生と一緒に作っているのがとてもいいと思います。
	保護者目線の項目 (4回答)	7%	幼稚園での子供の様子が見ることができて嬉しかったです (2回答) なかなか一人で制作できない子なので、サポートしてくれる大人がついてくれて良かった。 真剣になって作成しているところが、家での姿とは変わっていて楽しく拝見しました
	その他、展示のこと (2回答)	4%	映像が流れていなかった。 幼稚園ごとの映像、写真の張り出しがあれば分かりやすかったかな?
	無記入 (15回答)	26%	
④ 子ども達の作品だけではなく、作品と制作過程を見ることによって、どのような事が伝わりましたか。代表的なものを教えてください。	子ども達についての項目 (10回答)	18%	子供達の笑顔 (4回答) 活発に子供達が動いているところ のびのび活動している様子 子どもたちの楽しそうな様子 生き生きとした表情や取り組み方が伝わりました。 一生懸命で良かったです。 様々な子供がいるということ
	作品に関する項目 (8回答)	14%	子供達の発想力の素晴らしさ 作品がカラフルにできていたので、子供達のカラフルな楽しい心がそのまま作品に現れています☆ 子供の興味心、何にでも触りたい、増えたいという気持ちを大切にしたいと思いました。 どんなふうで作ってるかわかると楽しい 普段は出来上がった作品しか見れないが子供が話す内容を理解してやれる。 どのような段階を踏んでこの作品に至っているのが把握できたこと 様々な思いが凝っていて、作品が成立するのだな。作品には背景があること。 過程の中の嬉しさや発見が見えるところが良い
	学生と子ども達に関する項目 (3回答)	5%	父母や園の先生よりも年齢が近い為かフレンドリーな制作時間に見える (2回答) 学生と子供達の信頼関係
	保護者目線の項目 (2回答)	4%	園児や子供達の作る様子は保護者がいない時にどのように過ごしているのか知ることができてよかった。 本人は「鳥を作った。」と言っていたのですが、目まで書いていたとは思わなかった。
	その他 (3回答)	5%	子供を考えるいい機会になったと思います。 (2回答) 一緒に作って、一つのものを作り上げていくことが絆を強くすることと感じました。
	無記入 (31回答)	54%	

2-2 考察（制作過程の記録）

これらのアンケート結果から、制作過程の記録映像により作品だけでは伝えられない子供達の笑顔や一生懸命さが伝わったと言える。ねらいである先生方が展示を通して伝えたいことが記録の映像から伝わったと評価できる結果である。例えば、制作の中での、会話ややり取りから、子供達が制作を楽しんでいる姿や迷っている姿などが伝わっており、制作の過程を見せる意図が伝わったと言える。そして、このことにより、作品もさらに注目して見られたと言える。さらに、保護者と思われる方からの回答では、園での生活がみえ、より子供について考える機会となったという視点で良い効果も確認できた。その他にも一つ、学生と子ども達のやり取りを見せたことにより学生への一般の方（学校外部の方）からの素直な評価を得ることができたというのも今回の映像の一つの効果と数えたい。しかし、この合同の制作の日に子ども達と学生は初めて顔を合わせ制作しているため、学生と子ども達の関係性を大切にしないといけないことに気がついた。

3-1 調査結果（会話/コミュニケーション）

次に表3「アンケート結果3 会話/コミュニケーション」について見ていきたい。この問いにより、ねらいの一つである、子ども達の展示に対しての興味関心についてを見ていきたい。そのために、会話の中から見に来てくれた方の興味関心がどこに向いているのかという視点を聞く問い⑤「展示について、子ども達、または、一緒に見た方などどのような会話をしましたか。また、どのような会話をしようと思いますか。（展示を見ることでどのようなコミュニケーションが生まれましたか？）」という質問にした。無記入は28回答で49%であった。

一番に多かった答えが「色々な作品があるね。」や「子供達一人一人が個性がある作品を作っていてすごいと思います。」など展示全体や作品の感想について（展示の感想の項目）（10回答/18%）が挙げられた。次に挙げられた項目は、子ども達へ質問したり褒めたりする項目（保護者の展示への興味がわかる項目）（7回答/12%）と子どもから展示や作品についての話の項目（子供達の展示への興味がわかる項目）（5回答/9%）であった。それぞれ、「すごく上手に作れていてたくさん褒めました。」や「仲良しの子の作品を探して上手にできていることを喜んで話してくれた。」など子ども達は褒めたり褒められたり経験を得たことが伺える。また、子ども達からは「何を作ったかとか色々話ができる。」というような制作過程について説明する会話もあったことがわかる。その後は、子ども達と制作について話した項目（展示を通じて、発展した会話）（3回答/5%）という項目まで挙がった。その他（4回答/7%）には分類の難しいものを挙げておく。

表3「アンケート結果3 会話/コミュニケーション」

問い	分類	割合	回答
⑤ 展示について、子ども達、または、一緒に見た方などどのような会話をしましたか。また、どのような会話をしようと思いますか。（展示を見ることでどのようなコミュニケーションが生まれましたか？）	展示全体を見ながら（展示への興味の項目）（10回答）	18%	色々な作品があるねと子供に教えた（3回答） 羽の色が綺麗なところを話した。 他人の作品も観たり、先生の思いも普段聞けないので有意義だねと話していた。 個性的な作品と色使いについて みんな上手に作ってるね。 一人で来たので、でも学生と子供のコミュニケーションがあっという間だと思って見ていました。 子供達一人一人が個性がある作品を作っていてすごいと思います。 この子はこんな性格なのかな。と作った子を想像していました。
	子ども達へ質問したり褒めたりする項目（保護者の展示への興味がわかる項目）（7回答）	12%	すごく上手に作れていてたくさん褒めました。（2回答） 何を作ったか、どんな気持ちで作ったか（2回答） 子供の制作過程を見ることができたので、頑張ったね。すごいねと褒めてあげたいです。（2回答） 意外と上手にできていたので、ちょっと泣きそうになりました。本人には上手だねー！と伝えました。
	子どもから展示や作品についての話の項目（子供達の展示への興味がわかる項目）（5回答）	9%	仲良しの子の作品を探して上手にできていることを喜んで話してくれた。 子どもの作品がどこにあるのかどうやって作ったのかを聞いた。 何を作ったかとか色々話できた 楽しく作ったこととお話ししました☆ お友達作品あるよと教えてくれました。
	子ども達と制作について話した項目（展示を通じて、発展した会話）（3回答）	5%	一緒に頑張って、作ってみようって話して観ます。 ものを作りたいと思う気持ち 好きな色。「今」好きなものの話
	その他（4回答）	7%	相手がどのようなことを考えているのか相手への思いやり アウトプットにはインプットが必要なこと。日常を脱して旅に出たい15分でも。 親子の会話 生命の大切さと仲間、人間としての関わりが大事。優しさを感じる。
	無記入（28回答）	49%	

3-2 考察（会話/コミュニケーションについて）

子ども達の展示の興味関心をねらいとして、見に来てくれた方の興味関心を問う質問である問い⑤の結果からは、予想通り子ども達は褒められたり褒めたりする体験を展示を通じてするのだというこ

とが見えてくる。また、それは保護者にとっても子ども達の成長を見て褒めることができる体験だといえ、先生方が伝えたいことが伝わっていることがわかる。その他にも、自分の作品やお友達の作品を探して案内し、子ども達自身がどうやって作ったのかを説明するなど、積極的に展示に参加している様子を見ることができる。そして、注目したいのは、「一緒になって、作ってみよう」と誘って観ます。」や「ものを作りたいと思う気持ち。」をお話ししたという会話についてで、展示をみた大人の方に、「作って見よう」や「作りたい気持ちって大切だ」など心境の変化が見えるような会話が合ったことは一つの重要な点だと思われる。展示を見ることにより変わるのは、子ども達だけではなく大人もそうであり、それが保護者の場合、子ども達への良い影響も考えられる。

4-1 調査結果（展示への参加について）

次は表4「アンケート結果4 展示への参加について」である。前述の通り、今回の展示では園児保護者に対して、園児の研究への参加のための承諾書に、鳥の形に切ったカードを添付しメッセージを書いていただき小作品を制作し大人にも展示に参加してもらうという仕掛けを作った。そして、それは展示期間中も学生の働きにより、会場に来てくださった、まだカードでの参加をしていない方に対しても参加していただけるよう声がけさせていただいた。この仕掛けは、「子ども達の展示」ではなく「自分も参加した展示」という意識で見えていただければ、大人の方の見方が変わるのではないかとこの予想からである。アンケートの結果について見ていくと、問い⑥「あなたはカードに言葉を書き、展示に参加しましたか。」という参加の有無について聞いた問いでは、アンケートに答えてくださった方の中の35%に当たる20名が参加したと回答している。35%の参加という事もあり次の問い⑦の無記入が42回答で全体の74%と非常に多くなってしまったが、次の問い⑦「展示に参加することにより、展示の見方はどのように変わりましたか。」という展示の見方の変化について聞いた項目では、ねらい通りに興味を持つきっかけになったという回答が一番多い記述となった。また、問い⑧「今後、展示に参加する/できる機会があれば、積極的に参加したいですか。」という質問には、⑥と⑦の回答に反して、61%が積極的に参加したいと回答している。

表4「アンケート結果4 展示への参加について

今回の展示では、子ども達だけではなく、保護者の方、園の先生、幼児保育学科学生・教員、また、展示会場では、皆様に、詩人になって考えよう「子ども達の幸せってなんだろう？」と題し、カードに言葉を書いていただき展示作品として展示しました。

問い	選択肢	割合	回答
⑥ あなたはカードに言葉を書き、展示に参加しましたか。	はい	35%	20
	いいえ	63%	36
	無記入	2%	1
問い	分類	割合	回答
⑦ 展示に参加することにより、展示の見方はどのように変わりましたか。	興味を持つきっかけになった（8回答）	14%	自分が参加したことにより作品に対して興味を持てました。 他の人の意見もどんなだろうと気になった 他の人の思いも見れて考えさせられた。 みんなはどんなことを“幸せ”に思っているのか、色々観ました。（3回答） 少しでも子供の気持ちに近づけることができました。 他の人の言葉が気になり、より積極的に内容を知らうとなりました。 皆さんは子供の幸せとはどういうものと考えているのか
	変わらない（1回答）	2%	特に変わらない。
	その他（6回答）	11%	大型パネルになると子供も興味を持っていた。 仕事の参考になりました。 うちの子は他児に比べて不器用で劣っていると思っていました。個性って色々だと思いました。 子供達に対する接し方を見直したい。 とても素敵に見える。（2回答）
	無記入（42回答）	74%	
問い	選択肢	割合	回答
⑧ 今後、展示に参加する/できる機会があれば、積極的に参加したいですか。	はい	61%	35
	いいえ	21%	12
	無記入	18%	10

4-2 考察（展示への参加について）

カードのによる展示への参加についての問いでは、事前の予想に近い感想が得られた。展示に参加するという主体的な体験は展示の見方を変ええると言えるだろう。それは、主役の作品を制作した子ども達と同じ目線で見ることができたという事でもあり、さらにコミュニケーションが生まれていると取れる意見もある。展示に積極的に参加したいという意見が多かった事は、今回の展示のアンケートでは、不参加の割合が高い結果となったが、参加の方法などを見直す事で、増やす事ができると言えるだろう。

5-1 調査結果（展示全般について）

最後に表5「アンケート結果 5 展示全般について」にあげた質問をした。問い⑨と問い⑩の二つの質問は、⑨は作品や制作過程の記録映像など「部分」の感想として、「今回の展示について、あなた気に入ったところを教えてください。」という質問を、また、⑩は作品の全体的なテーマや展示の仕方についての感想として設定し、「展示全体の感想を教えてください。」と質問をした。無記入の回答は問い⑨は25回答で44%、問い⑩は26回答で46%となり、アンケートに協力してくださった半数の方に感想を記入していただけた。ただ、どちらも同じ意味合いの感想を答えた方は少なかったにも関わらず、問い⑨と⑩の回答は似たものになった。

それでは、展示について気に入ったところ聞いた問い⑨と展示の全体の感想を聞いた問い⑩両方を見ていきたい。どちらも一番多くあげられたのは、作品についての項目であった。（⑨12回答/21%と⑩14回答/25%）「様々な色をたくさん使ってとても綺麗だと感じました。」「自由に色が使わせていて、子供達の楽しそうな様子が目に浮かびました。」など、作品についての感想があげられた。次に多く挙げられたのは、展示会場で行われていたワークショップについての項目であった。「子供が夢中になれるブースがあったところ」や「実際に作れるので子供はとても関心がありましたよ。」「楽しかったです。ありがとうございました。」など展示作品と共に実際に造形遊びができるワークショップの人気の高さが伺える。（⑨7回答/12%と⑩8回答14%）次は展示について（⑨4回答/7%と⑩5回答/9%）であった。「幼稚園ごとに分かれていて、観やすかった。」や「学祭のために…というよりは楽しんでやれてる感じでまた来たいです。」など良い評価が目立った。そのあとに、先生や保護者の参加について（⑨4回答/7%と⑩1回答2%）と映像について（⑨4回答/7%と⑩3回答/5%）が続く。「保護者や大人の意見があるのはとても気に入りました。」「作品だけでなく制作過程を見ることができるのは良いと思う。」などの意見が挙げられた。

表5「アンケート結果5 展示全般について」

問い	分類	割合	回答
⑨ 今回の展示について、あなたの気に入ったところを教えてください。	作品について（12回答）	21%	様々な色をたくさん使ってとても綺麗だと感じました。（3回答） 可愛らしい雰囲気が出た。（2回答） 個性あふれる鳥がとても可愛いなと思いました。（2回答） 自分のオリジナルのものを作っている子供の生き生きとした様子 子供達の作品をちりばめた屏風みたいなボード 色々な表現があるなと思った。 鳥だけでなくイモムシがいたところ 1つ1つの作品が輝いて見えました。
	ワークショップについて（7回答）	12%	子供が制作できるところ（5回答） 子供が夢中になれるブースがあったところ 簡単に鳥の絵が綺麗に作れたところ。
	展示の仕方について（5回答）	9%	保育園や幼稚園ごとに展示方法が違うところが面白い。 幼稚園ごとに分かれていて、観やすかった。 みんなの作品が集まって一つの作品になっているところ 高さのある展示、子供の可視化 展示の仕方がとても綺麗だったところ
	先生や保護者も参加（4回答）	7%	先生方や保護者の方も参加しているところ 子供と親と先生と、みんなで“幸せ”について考えることができたところです。 色々な幸せがあることを知った。 保護者や大人の意見があるのはとても気に入りました。
	映像について（4回答）	7%	作っているところをビデオで流しているのがよかった。（4回答）
	無記入（25回答）	44%	
⑩ 展示全体の感想を教えてください。	作品について（14回答）	25%	カラフルでみんなの個性が出ていてよかった。（5回答） 可愛い作品だと思いました。（3回答） 子供達の頑張りがすごく伝わってきました。 自由に色が使わせていて、子供達の楽しそうな様子が目に浮かびました。 とてもいい。感動です（4回答）
	ワークショップについて（8回答）	14%	とても綺麗な色使いでした。一緒に作れて良かったです。（2回答） 学生さんたちが子供へよく接してくれていました。（2回答） 楽しく制作できたようで嬉しいです。 実際に作れるので子供はとても関心がありましたよ 全体に色々な紙や折り紙での遊びがあるのだと思いました。 優しく指導して折り紙体験してくれてありがとう。
	展示について（4回答）	7%	各園の展示を見ることができて嬉しかったです。 手作りの楽しい空間でした。 学祭のために…というよりは楽しんでやれている感じがまた来たいです。 真ん中のブースがちょっと分かりづらかった。ちがう園の子が混じっていました。
	映像について（3回答）	5%	作品だけでなく制作過程を見ることができるのは良いと思う。 ビデオは声も聞けるしいいなと思いました。 制作過程の記録映像はプロジェクターで流すほかに壁に貼って観られる方法があるといいなと思います。
	皆んなの参加について（1回答）	2%	子供だけでなく、保護者・先生・学生といった皆さんの顔がりの見えるいい展示だったと思います。
	その他（1回答）	2%	アンケートの項目が多い…
	無記入（26回答）	46%	

5-2 考察（展示全般について）

展示全般について質問した項目で、作品についてあげる回答が多かったという結果になった。これは、上記で質問した、記録の映像やメッセージカードを通して展示により関心を持ってもらうことができ、その上で、子ども達の作品をしっかりと見てもらえた、と考えることができる。作品の作者である子ども達のはっきりと見えることにより、作品もより注目して見られたのではないかな。そして、およその回答が、本研究で挙げていた展示のねらいが達成できたと言える結果となっている。子ども達の作品からは子ども達の楽しそうな姿を感じてもらえ、また、メッセージカードはみんなで子ども達の幸せについて考えたという体験を受け取っている回答もある。そのほかに注目したいのは、ワークショップが作品をみるだけの物ではなく、体験するものになっている点は興味深い。子ども達も（事前の合同制作で）作ったことがあるため、「教えてあげる。」と制作に向かう姿も見えた。そのワークショップでも子ども達と学生、そして保護者とのやりとりがあり、さらなるコミュニケーションの生

まれた場としても評価できる。最後に回答にもあるが、より多くの人に研究に参加してもらえるためにも、研究の説明やアンケートの文字の分量など、少なくし、参加のハードル低くする必要はある。

4章 今後の課題

本研究は、作品を通して、子ども達と共感し、子ども達の感性を育む場としての展示を考えることを大きな目的としている。今回実践した作品展では、2つの課題をあげ研究を行った。一つは、子ども達の成長を感じてもらえるために制作過程を撮影し上映することだ。2つ目は、展示を通して子ども達が展示や造形遊びにより興味を持てるようになる為に、大人から褒められたりする体験を増やす事をねらいとし、大人も作品を作り展示に積極的に参加してもらう展示を目指した。展示を通して子ども達と様々な会話をしてもらうことが目的である。

この2つの課題を展示のねらいとし、青森中央短期大学附属園の子ども達と幼児保育学科1年生の合同の作品展を企画した。子ども達と学生が一緒に一つの作品を作り、その制作過程を撮影し、上映する。また、保護者や園の先生方、学生には「子ども達の幸せってなんだろう？」というタイトルでメッセージカードを制作してもらい展示した。そのほかにも、展示期間中は学生による造形ワークショップを開催した。

そして、この2つのねらいを達成できたか、またそのほかの課題は何かを見つけるために会期中にアンケートを実施し、調査をした。はじめに、園の展示であるため、たくさんの園児保護者が見に来てくださった。このことから、園の作品展は園児とその周りの人が対象者となる。今回のように大学の学園祭での展示であってもやはり保護者が多かったことから、ターゲットは子ども達とその関係者にしほって考えることができるということが言える。次に、映像の上映により、制作過程を見せ、子ども達の笑顔や作品を作ろうと一生懸命頑張る姿など、作品では伝わりづらい先生が作品展を通して伝えたい事を伝える試みは成功したと言える。しかし、今回のように学生と子ども達の合同の制作を映像にして展示をすると、子ども達の笑顔やがんばりのほかに、学生とのやりとりもフォーカスされることがわかった。この合同の制作の日に子ども達と学生は初めて顔を合わせ制作しているため、学生と子ども達の関係性を大切にしないといけないことに気がついた。(学生と子ども達は楽しく制作してくれた。) また、保護者が展示へ参加することにより起こる保護者の心境の変化は、子ども達にダイレクトに影響する。作品を見る、制作している子ども達の映像をみる、展示に参加するという体験の中で、「お家でも一緒にやって見よう。」と思う事は、子ども達の制作環境を劇的に変えるだろう。ただし、その参加方法については強制にならないようにするべきだろう。その為にも参加へのハードルを感じさせない、大人も子供も楽しい参加方法や造形ワークショップを考えることが大切だと言える。また、展示が終わった後に行った附属園との振り返りの中で、当日展示に来ることができなかった保護者の対応もあればとのご意見もいただいた。それぞれの作品を一度各園に移動し展示してもらうなど、展示後の対応も考慮していきたい。

今回の実践は、制作過程を映像で見せる事と保護者を含む多くの大人にも展示に参加してもらうという2つの課題をもって行った。結果、展示はそこに置いてある作品よりも子ども達の笑顔や頑張りが見える展示になったと言える。また、今後の課題としてより子ども達、保護者、学生という人と人との関係がもっと見える作品展というのが目指すべき方向かと考えられる。参加しやすい展示にする為

にも、今後も展示を続けていくということも大切な事だと考える。

謝辞

研究にあたり、協力していただいた附属園の子ども達と保護者の皆様、そして、先生方に、また、アンケートに回答してくださった皆様に感謝の意を表したいと思います。

参考文献

- 1) 文部科学省編「幼稚園教育要領解説」フレーベル館、2008
- 2) 子どもの造形表現研究会編『保育者の為の基礎と応用 楽しい造形表現』圭文社、2007
- 3) 立崎博則『幼稚園の作品展の可能性の研究の為の現状調査』青森中央短期大学研究紀要29号、2015